

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】 専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常勤 教員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理 学療法 士又は 作業療 法士数			
理学療法 士科	人	人	人	人	人	9人	9人	人	50人	13.2人
計	人	人	人	人	人	9人	9人	人	50人	—

【自己評価 1-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専 任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	倫理学	15	東 昌紀	兼任
		物理学	8	堀越 圭子	兼任
		統計学	8	堀越 圭子	兼任
		生物学	15	沖田 章子	兼任
		医学英語	15	大池 あと美	兼任
		保健体育Ⅰ	15	田中 靖人	兼任
		保健体育Ⅱ	15	田中 靖人	兼任
		情報処理演習	8	福林 秀幸	専任
		コミュニケーション論	15	大野 詩織	兼任
		キャリア教育Ⅰ	12	堂脇 ゆかり	専任
			3	酒巻 直美	専任
キャリア教育Ⅱ	8	酒巻 直美	専任		
専門基礎分 野	人体の構造と機能及 び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	荒川 高光	兼任
		解剖学Ⅱ	15	荒川 高光	兼任
		解剖学演習Ⅰ	8	坂東 恵美子・小堀 博史	専任
		解剖学演習Ⅱ	5	小林 正明	専任
			5	谷 和真	専任
			5	藤 信太郎	専任
		解剖学演習Ⅲ	15	堂脇 ゆかり	専任
		生理学Ⅰ	15	三木 雪子	兼任
		生理学Ⅱ	15	三木 雪子	兼任
		生理学Ⅲ	15	酒巻 直美	専任
		運動生理学演習	15	小林 正明	専任
				田中 靖人・喜田 直樹	兼任
		運動学Ⅰ	15	坂東 恵美子	専任
		運動学Ⅱ	15	谷 和真	専任
		運動学Ⅲ	15	藤 信太郎	専任
人間発達学	15	酒巻 直美	専任		
専門基礎分 野	疾病と障害の成り立 ち及び回復過程の促 進	内科学Ⅰ	15	谷山 紘太郎	兼任
		内科学Ⅱ	15	谷山 紘太郎	兼任
		臨床心理学	15	大原 亜由美	兼任
		精神医学	15	出田 祐久	兼任
		整形外科Ⅰ	6	藤 信太郎	専任
			4	山川 亮	兼任

			3	松本 直也	兼任
			2	見川 隆三	兼任
		整形外科Ⅱ	2	藤 信太郎	専任
			1	石川 正雄	兼任
			2	佐藤 伸明	兼任
			2	峯 貴文	兼任
			1	山川 亮	兼任
			3	松本 直也	兼任
			4	見川 隆三	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	劉 兆權	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	劉 兆權	兼任
		小児科学	2	西村 範行	兼任
			1	山本 暢之	兼任
			1	坊 亮輔	兼任
			1	山口 宏	兼任
			1	近藤 淳	兼任
			1	花房 宏昭	兼任
			1	城戸 拓海	兼任
		一般臨床医学Ⅰ	8	高幣 和郎	兼任
			4	三木 明德	兼任
			3	林田 健	兼任
		一般臨床医学Ⅱ	2	水島 健太郎	兼任
			1	野沢井 隆・岩井 克磨・ 山口 沙織	兼任
			2	岩井 克磨	兼任
			2	山口 沙織	兼任
			2	野沢井 隆	兼任
			1	林田 健	兼任
			1	阪本 壮志	兼任
			1	淡路 大致	兼任
			1	今井 絵美子	兼任
			1	三村 明美	兼任
			1	山本 雅美	兼任
		病理学概論	15	荒木 金隆	兼任
		臨床栄養学	5	三好 真琴	兼任
			3	前重 伯壮	兼任
		臨床薬学	8	大石 美恵	兼任
専門基礎分野		公衆衛生学	1	小野 一男・井村 聡子	兼任
			7	小野 一男	兼任

	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		7	井村 聡子	兼任
		社会福祉学	15	棚野 恭範	兼任
		リハビリテーション概論	15	堂脇 ゆかり	専任
		リハビリテーション医学	15	鮫島 一雄	専任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	15	鮫島 一雄	専任
		理学療法概論Ⅱ	15	鮫島 一雄	専任
		臨床運動学	15	藤 信太郎	専任
		基礎理学療法学演習Ⅰ	15	堂脇 ゆかり	専任
		基礎理学療法学演習Ⅱ	15	谷 和真・小林 正明	専任
		理学療法研究論	8	小林 正明	専任
専門分野	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	8	坂東 恵美子	専任
		理学療法管理学Ⅱ	8	酒巻 直美	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	谷 和真	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	福林 秀幸	専任
		理学療法評価学Ⅲ	15	小林 正明	専任
		理学療法評価学Ⅳ	15	坂東 恵美子	専任
		理学療法評価学Ⅴ	3	今井 絵美子	兼任
			7	小林 正明	専任
			5	坂東 恵美子	専任
理学療法評価学Ⅵ	15	藤 信太郎・小堀 博史	専任		
専門分野	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	15	福林 秀幸	専任
		運動療法学Ⅱ	15	小堀 博史	専任
		物理療法学Ⅰ	15	福林 秀幸	専任
		物理療法学Ⅱ	15	福林 秀幸	専任
		日常生活活動学Ⅰ	15	堂脇 ゆかり	専任
		日常生活活動学Ⅱ	15	堂脇 ゆかり	専任
		装具学	14	谷 和真	専任
			1	嘉納 綾	兼任
		義肢学	13	鮫島 一雄	専任
			2	高瀬 泉	兼任
		運動器系理学療法学Ⅰ	15	兒島 章	兼任
		運動器系理学療法学Ⅱ	15	兒島 章	兼任
		内部障害理学療法学Ⅰ	5	鶴崎 太志	兼任
			10	酒巻 直美	専任
		内部障害理学療法学Ⅱ	14	小林 正明	専任
			1	中村 由果理	兼任
		中枢神経系理学療法学Ⅰ	15	沖山 努	兼任
		中枢神経系理学療法学Ⅱ	12	坂東 恵美子	専任
			3	金森 慎治	兼任

		中枢神経系理学療法学Ⅲ	10	坂東 恵美子	専任
			5	姫野 広美	兼任
		中枢神経系理学療法学Ⅳ	8	窪津 秀政	兼任
		小児理学療法学	11	鮫島 一雄	専任
			4	酒巻 直美	専任
		スポーツ障害理学療法学	3	藤 信太郎	専任
			12	中山 伸治	兼任
		疼痛理学療法学	1	松原 貴子	兼任
			8	下 和弘	兼任
			6	大賀 智史	兼任
		理学療法臨床技能演習	15	福林 秀幸・藤 信太郎	専任
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法学総論	15	小堀 博史	専任
		生活環境学	10	酒巻 直美	専任
			5	小堀 博史	専任
		地域理学療法学各論	2	酒巻 直美	専任
			2	山本 克己	兼任
			2	大西 美緒	兼任
			2	村上 隆太郎	兼任
			2	藤田 愛	兼任
			2	小堀 博史	専任
		3	坂東 恵美子	専任	
専門分野	臨床実習	臨床実習Ⅰ		鮫島 一雄・堂脇 ゆかり・坂東 恵美子・酒巻 直美・藤 信太郎・福林 秀幸・小林 正明・谷 和真・小堀 博史	専任
		臨床実習Ⅱ		鮫島 一雄・堂脇 ゆかり・坂東 恵美子・酒巻 直美・藤 信太郎・福林 秀幸・小林 正明・谷 和真・小堀 博史	
		臨床実習Ⅲ		鮫島 一雄・堂脇 ゆかり・坂東 恵美子・酒巻 直美・藤 信太郎・福林 秀幸・小林 正明・谷 和真・小堀 博史	
		臨床実習Ⅳ		鮫島 一雄・堂脇 ゆかり・坂東 恵美子・酒巻 直美・	

			藤 信太郎・福林 秀幸・ 小林 正明・谷 和真・ 小堀 博史
	臨床実習Ⅴ		鮫島 一雄・堂脇 ゆかり・ 坂東 恵美子・酒巻 直美・ 藤 信太郎・福林 秀幸・ 小林 正明・谷 和真・ 小堀 博史

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1年後期	理学療法概論Ⅰ	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		キャリア教育Ⅰ	1年前期
		コミュニケーション論	1年後期
		理学療法管理学Ⅰ	1年後期
		基礎理学療法学演習Ⅰ	1年後期
臨床実習Ⅱ（評価実習）	2年後期	理学療法評価学Ⅰ～Ⅲ	1年後期
		理学療法評価学Ⅳ～Ⅵ	2年前期
		理学療法管理学Ⅱ	2年後期
		理学療法臨床技能演習	2年後期
		理学療法概論Ⅱ	2年前期
		臨床運動学	2年前期
		基礎理学療法学演習Ⅱ	2年後期
		日常生活活動学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
臨床実習Ⅴ （地域リハビリテーション実習）	3年前期	地域理学療法学総論	2年後期
		生活環境学	2年後期
		地域理学療法学各論	3年後期
臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	3年前期	リハビリテーション医学	2年後期
		運動療法学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	3年後期	物理療法学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
		装具学	2年前期
		義肢学	2年後期
		運動器系理学療法学Ⅰ・Ⅱ	2年前・後期
		内部障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	2年前期
		中枢神経系理学療法学Ⅰ～Ⅳ	2年前・後期
		小児理学療法学	2年後期
		スポーツ障害理学療法学	2年後期
		疼痛理学療法学	2年後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2

	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1
--	--------------------------------------	---

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会	
委員名（委員長）	委員長 三木 明德	
組織の開催頻度	年3回程度	
組織の取り組み内容	次の事項の取り組みを行っている。	
	(1) 学校評価の実施・運営に関すること。	
	(2) 自己評価の評価基準項目に関すること。	
	(3) 自己評価報告書の作成に関すること。	
	(4) 学校評価結果に基づく改善策の提案に関すること。	
	(5) 学校評価結果の公表に関すること。	
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL: https://www.kobecc.ac.jp/entrance/school/johokokai/ ）	

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	各科の教務委員（7人）、事務職員
	改善の仕組みの実際	教務委員会で定期的に記載内容の検討を行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価、授業評価、学校評議会の評価及び外部評価の意見等を受け、改善策を検討することとしている。
